小池旋風は？自民逆風の中で。都議選週末投開票

都議選は今週末投開票だ。直前に豊田真由子衆議院議員の暴言暴行からの離党。

選挙期間中も麻生副総理の豊田問題にからめた「女性を軽んじる風」な発言。そして安倍総理の獣医学部を増設する云々、稲田防衛大臣の「自衛隊」を選挙戦略にするかのような発言。本当にまじめに誠実に都政を推進してきた自民都議なのに、この逆風がおさまらずかわいそうに、という有権者も多いのではないか。

昨日は小池氏が久米川駅で街頭演説。公明党候補の応援だった。公明党支持者の熱気のなかで小池氏は「公明党との連携でスピード感がある改革が進められる」と強調した。

街で都民ファーストの政党ポスターを見たが、「選挙の９日間は頭をさげ、あとはふんぞりかえる」などという辛辣な文字が躍っていた。驚いたのは同じポスターにある細かい字は英文だった。英文で訴えることに心底違和感を感じた。ここは日本だ。しかも簡単な文章ではない。かつて、田中角栄氏の名物秘書早坂茂三氏の講演を聞いた。早坂氏は「中学生にわかるように自分の主張はしないと人の心は動かない」と言い切った。有権者は１８歳から１００歳がらみまで、英語を理解する人しない人も含まれる。都民のための都政が行われないことは明らかではないか。

豊田真由子代議士について昨日、暴言を吐いたのは「高速道路を逆行しようとしたから」などという擁護発言が細田元幹事長からあった。それも空疎な言い訳ではないか。危険運転には違いないが、逆行したわけでもなく、しかも、あんなに暴言を吐き続けることは異常でビョーキだ。また最近、盗撮と児童買春で若い市議が逮捕されたり、事情聴取をうけた。国も地方も議員が「公人」としての矜持の欠落しているからか。

「とにかく人柄が抜群でまじめ。だから人が寄ってくる」という応援演説を聞いたことをこのごろよく思い出す。恰好いいこと、若いこと、英語を使うこと、学歴、職歴がきらびやかなこと、それは関係ないのだ。さて、都議選の結果はいかに。